

「また来たい」「もつと知りたい」

首都圏の大学生がつがる市に「移住体験」

昨年11月23日から25日、2泊3日の日程で「大学生移住体験ツアー」が行われ、首都圏の学生がつがる市の魅力を味わいました。



森田町の古民家で郷土料理「すし」の調理を体験する参加者。甘酸っぱいモチ米に少々戸惑いながらも「慣れるといいね」



商店街の人々とふれあう学生たち



生産者と一緒にリンゴの収穫を体験



まちの活性化を考えたワークショップ

参加した学生は「すぐに移住とはいかないが、また来たいと思うまち。ツアーなどを続けて交流人口を増やすことで、将来的に移住者が増えると思う」と感想を残しました。

最終日は、2日間の体験をもとに、市活性化を考えるワークショップを開催。「人柄が温かい」「食べ物がおいしい」「津軽弁がかわいい」といった魅力が挙げられた一方、「交通の便が悪い」「若者が少ない」「市の認知度が低い」などの課題が挙げられました。いろいろな意見が出る中で学生は、地域活性化案としてSNSによる発信力の強化を提案。ハッシュタグ「#つがるさこいへ」を合言葉に、行政と市民、市を訪れた人が一体となってPRしていくことが必要だとしました。

ながら地域住民と交流。高山稻荷神社など「インスタ映え」で注目を集める観光地も散策しました。

最終日は、2日間の体験をもとに、市活性化を考えるワークショップを開催。「人柄が温かい」「食べ物がおいしい」「津軽弁がかわいい」といった魅力が挙げられた一方、「交通の便が悪い」「若者が少ない」「市の認知度が低い」などの課題が挙げられました。いろいろな意見が出る中で学生は、地域活性化案としてSNSによる発信力の強化を提案。ハッシュタグ「#つがるさこいへ」を合言葉に、行政と市民、市を訪れた人が一体となってPRしていくことが必要だとしました。

参加した学生は「すぐに移住とはいかないが、また来たいと思うまち。ツアーなどを続けて交流人口を増やすことで、将来的に移住者が増えると思う」と感想を残しました。

つがる市消防団出初め式

「地域を守る」士気高らかに



福島市長による規律厳正な服装点検



勇壮な分列行進



行進を盛り上げるラッパ隊

新春恒例の「つがる市消防団出初め式」が1月6日、市役所周辺で開催されました。

真冬日となつたこの日、出初め式には56分団約960人の消防団員と79台の消防車両が参加。寒風が吹きつける中、福島市長らによる服装点検を受けた団員らは、ラッパ隊の演奏に合わせて勇壮な分列行進を披露し、地域を災害から守る士気を高めました。

続いて松の館で行われた式典では、福島市長が「自然災害の多発を背景に消防団員の重要性は高まつている。市民が安心して暮らせるまちの構築に向け、一層のご活躍を期待します」と団員らを激励。続いて箱田鐵雄消防団長が「普段から最善の準備をして火災の減少に努めてください」と訓示を述べました。表彰では、日頃の火災予防活動に加え農産物の夜間パトロールに取り組んだ森田第7分団(猫渕)と、県消防操法大会出場にあたり訓練に励んだ車力地区13人の団員に団長表彰、勤続30年以上の勇退団員に福島市長から感謝状が贈呈されました。

また、出初め式に先立ち、福島市長と箱田消防団長ら消防団幹部が、三新田神社で今年一年の無火災を祈願しました。

つがる市長職務執行者 古坂 英氏 訃報のお知らせ

旧柏村長を昭和55年から平成17年までの7期25年にわたって務め、つがる市誕生後も市長職務執行者としてご尽力された古坂英氏が、1月5日ご逝去されました。長年の功績に対して深く感謝申し上げますとともに、衷心より哀悼の意を表します。

■主な経歴

昭和55年1月から平成17年2月10日まで柏村長7期25年、平成17年2月11日から同年3月13日までつがる市長職務執行者をはじめ、西津軽町村会会長、柏村農業協同組合長などを歴任しました。

■主な受賞

平成17年 市町村合併功労者総務大臣表彰
平成18年 旭日小綬章

